

日本人の食生活が欧米化しつつあることは、国民栄養調査などから明らかであり、このよき日本人の食事内容の一番大きな変化は、動物性食品(動物性脂肪・たんぱく質)の摂取の増加である。それに伴った疾病の発生も増加しつつある。食事中のたんぱく質を考慮した食事内容とするならば、近年、摂取量の減少傾向にある豆類の価値を見直す必要があると思われ。大豆の脂肪代謝への影響については数多くの報告がなされてくるが、他の豆類については、あまり研究されておらず、検討した。

方法 ウィスター系白ネズミ、一群5匹の初体重200gのものを用い、7週間各試験食で飼育した。基本飼料はカゼイン18%、コーンスター48%、コーン油8%、ミネラル混合4%、ビタミン混合1%、セルロース粉末1%である。試験豆類は、市販小豆、金時豆、大福豆、グリーンピースを粉末したものを用いた。基本飼料8に対して各々の粉末豆を2の割合に混合したものを試験食とした。

結果 各試験食で7週間飼育したのち、次のよき結果を得た。

- ①飼料摂取量には差は認められなかったが、体重の増加にはいくぶん変化があった。
- ②豆類食の場合、肝臓重量が低下する傾向を示した。
- ③皮下脂肪組織重量は豆類添加食が基本食と比較して低値であった。
- ④グリーンピースは、血清、肝臓の脂肪組成は対照群よりも高値であった。
- ⑤大納言は肝臓脂肪が対照群や他の豆類よりも高値であった。
- ⑥肝臓総脂肪酸組成は、豆類でC20:6, C18:0が対照群と比較して高割合となった。